

第51号

発行所

大阪市史跡 龍溪禪師墓所 雲竜山九島院
〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)

お寺が栄えることは檀信徒の皆様喜びであり

遺失物法不改正に！

ペットは最後まで責任を持つて

小泉首相は九月の任期切れを前に、国会の会期延長をしないと宣言しました。耐震偽装事件の偽メール問題で空転したあげく、重要法案はことごとく廃案継続審議になりそうです。

「遺失物法改正案」もその一つで、同案が可決成立すると、「迷い犬」「迷い猫」は同法の適用外となり、殺処分が増加する懸念がありました。

従来は拾得物として警察が二週間程度預かっていましたが、改正後は、動物愛護法に基づき都道府県扱いになり、地方自治体が管理する「保健所」が預かることとなります。

大阪では、警察に保護された七割の犬猫が、飼い主に返還されていますが、保健所ではその保管期間について何の記載がなく、狂犬予防法による各自治体の条例で、たいていの都道府県は二、三日の公示後飼い主が現れなければ殺処分にされてしまいます。

かえがたく必死に探しますが、二、三日では捜し当てることは不可能で、その意味でも同法改正案の不成立は歓迎するところ

です。最近、「ペット葬」が流行っています。キリスト教では考

えられないそうです。S・フィナテリ神父は、日本にやって来て、ある婦人から犬のためにミサ(葬儀)をささげてやってくれと要請され、驚いたと書いています。

「死者ミサはラテン語でレクレイム・ミサ(鎮魂ミサ・追悼ミサ)といい、亡くなった人の命日にするが、それは亡くなった一人のためであり、愛犬のためというのは前代未聞だった。(略)・ミサは「靈魂の安息」のためのもので、犬にはこうした「靈魂」は存在しない、理論的にも「犬のためのミサ」は成り立たない」(S・フィナテリ神父著「キリスト教の常識」)

仏教は、一切衆生、悉有仏性(涅槃経)——生きとし生けるもの、すべてに仏性がある——と教えています。犬など畜生も人間と同じ存在で、六道輪廻と



畜生界・餓鬼界・地獄界を、生前の行いによって車輪の輪のようになり、生まれかわり死にかわりとされています。

人間も動物も、ともに迷いの存在であり、輪廻の存在なのです。ひょっとして、死後、畜生に再生しないともかぎらないのです。だから、キリスト教徒から残酷だと誇(そし)りを受けなくても、われわれ日本人は自分の手で動物の生命を奪うことを躊躇してしまいうため「命あれば生きよ。」と野良犬にしてしまうのかもしれない。

しかし、動物愛護の精神からは、犬、猫などペットを飼った以上、最後まで責任をとらねばならぬ事は言うまでもありません

九島院人物列伝③

沢木興道老大師と九島院

一 稀代の禅僧 宿なし興道 一

稀代の禅僧 沢木興道老
 は、当院の坐禅会で、大正の
 始めより、昭和三十九年まで
 実に五十年の永きにわたりご
 指導を賜りました。

老師は曹洞宗の方ですが、
 先々代住職榮忠和尚が二十二
 歳、明治四十四年に、志あつ
 て法隆寺勤学院へ入学したお
 りに知遇を得ました。老師は
 和尚より十歳年上でした。

勤学院は、宗派をこえ各地
 から大勢の学僧があつまる仏
 教学の最高学府でした。同じ
 禅僧として、妙心寺派の僧と
 榮忠、老師と期せずして、禅
 三派トリオ（老師が名付け）
 ができました。



晩年の老師

お寺が栄えることは檀信徒の皆様の喜びであり

当時、九島院は第十二代の
 省己和尚が老齢のため住職を
 辞す考えであり、榮忠和尚は
 僅か一月ばかりの在学であり
 ました。が、帰坊するにあたり
 老師に「沢木君、坐禅もよい
 がいつまでも引っ込んでい
 るより、外へ出て坐禅会をや
 ってみてはどうか」と勧めまし
 ました。老師はいろいろ思案し
 た。老師は、遂に外へ出る決心を
 あげ、遂に外へ出る決心を
 され、遂に外へ出る決心を

涯を通した「移動叢林」の
 じめであったといえます。道
 「名もいらん、妻もいらん、
 寺もいらん、妻もいらん、道
 のために食えなければ飢え死
 にするまでのことじゃ」と常
 々いわれ、「宿なし興道」と
 して、身を捨てて生涯を仏祖
 正伝の只管打坐をひろめる
 薩道に生きられました。蓋
 ある時、老師は大きな木箱
 をもって来院されました。
 には「黄蘗木菴和尚鉄鉢」と
 あり、「これは熊本の古道具

屋で見つけ大切にしていたが
 これは九島院へやるべき筋の
 ものだと、かねてより考えて
 いた」と言われました。今で
 も当院の寺宝として大切にし
 ています。

老師はある時、「駒大に黄
 檗關係の学生がいるが、なか
 なか熱心な学生がいる。あれ
 はきつと大したものになるよ
 林という学生だ」といわれま
 した。彼こそ、黄檗第五十九
 代管長の林文照猊下（本年四
 月二十五日遷化・享年八十五
 歳）でした。猊下には、先代
 弘忠和尚の津葬（寺葬）の導
 師に来て頂きました。

昭和三十八年六月、「宿なし
 興道」の名を遂に返上され
 京都北の鷹峰の安泰寺に引退

閑栖されました。当院とのご
 法愛の謝礼をかねて、先代弘
 忠和尚がお見舞いに行つたと
 ころ、老師が常に口にされた
 鷹峰の見える一室に通され、
 「弘忠さんよ、あれを見よ
 自然は広大だ。人間のやって
 いることは知れたものだ。あ
 の鷹峰はいつも、こうしてわ
 たしを見下ろして『興道や、
 興道や』と言ってくれている
 よ」と言われそうです。

幣師、弘忠和尚は老師に大
 いに影響を受けられ、執着心
 とは無縁な方でした。破れ
 衣を着けていても、全く気に
 せず、悠々自適の晩年を過ご
 された。おかげで九島院の
 生涯の課題となりまして。

その報霊建てます。火難は、参さ
 るごいのたう火難は、非り
 のたう火難は、非り
 のたう火難は、非り

猫地歳 — 火難よけに靈験 —

もたらされたもので、おられたも
 った。おられたも
 った。おられたも
 った。おられたも
 った。おられたも
 った。おられたも



その報霊建てます。火難は、参さ
 るごいのたう火難は、非り
 のたう火難は、非り
 のたう火難は、非り



○水道小屋の新築
 昨年、新堂穂積和尚の仏前結婚式に際しては、大勢の方々より過分のお祝いを頂戴いたしました。
 ご祝儀の一部で、墓地水道小屋の新築工事に使わせていただきました。小さなお堂かと見まがう立派なものができました。
 利用の便を考え、水道栓を二基にし、排水溝も新設しました。線香やマッチは戸棚にありますので、ご利用下さい。なお、タワシなど私物をい

檀信徒の皆さまへ

いる置かれる方がありますが美観上、お寺で設置しているものを共同でご使用し、私物は置かないようお願いいたします。「洗塵(せんじん)」と刻書した横額(住職書)を掲げました。これは、洒水偈(道場を浄めるお経に「衆生業垢の塵を洗い」人々の振る舞いによる汚れを洗い)にある文言ですが、神仏に祈願するときに、冷水などをあび水垢離するように、基参によって、少しでも紅塵(浮世のちり)をご先祖まいりによって流してほしい願いを込めていきます。

○天光塔改修費喜捨

大本山塔頭の萬松院には、当院ご開山龍溪禅師の墓があります。お墓は天光塔(重要文化財)といいますが、内部の土間が傷んできましたので、堂外軒下の瓦葺き工事をあわせて施工することになり、工事費用九十一万円は、九島院新堂穂積和尚の僧階が一級昇

第12回修養会ご案内

本年は大仏巡拝の三回目です。穂積和尚の結婚式のため次回まわしとなった彦根大仏です。彦根大仏は黄檗宗のお寺で、濟福寺といって1丈6尺(5.5メートル)の延命地藏菩薩が本尊です。寄進の胎内には11代藩主直中が夢のお告げにより、安産の胎内佛「安産地藏尊」が祀られ、子宝・安産の祈願寺として信仰を集めています。その他、龍潭寺(井伊家の菩提寺)で庭園・襖絵が拝観します。是非、お誘いの上ご参加下さい!

募集要項

- 日時 11月3日(文化の日) 9時集合出発
- 集合場所 九島院より貸し切りバスに乘車
- 旅程 九島院 — 濟福寺(膳) — 彦根城(膳・観) — 龍潭寺(膳) — 九島院(5時解散予定)
- 会費 1万円(食事・拝観料込・当日徴収)
- 募集人員 40名(満員になり次第締め切り)
- ※先着順です。申し込みは、当院(☎06-6583-2725) 出発日の半月前に確認書をご郵送します。

「開山龍溪禅師の喜び、誰よりも御本尊の喜びです！」
 格し堂主になりました。

○ホームページ開設

穂積和尚が勉強してくれ、九島院ホームページを開設しました。まだまだ稚拙なものです。ご覧下さい。

○無縁墓地の整理

昨夏公示しました無縁墓地の整理工事を今秋から始めます。該当の墓碑でご存じの方があればお知らせ下さい。

ホームページアドレス

<http://www.kyutouin.or.jp>

にて現在取得中。7月中旬以降に上記アドレスにて九島院ホームページがオープン予定です。

編集後記

▼道路交通法改正による駐車違反取り締まりの民間委託がスタートしました▼六月一日の開始以来、五日間に全国で五千五百五件の摘発がありました。初日は九百六十五件でしたが、五日目には千八百八件が摘発されたそうです▼初日の用心も、いつまでも続きません。迷惑駐車がなくなり、渋滞や交通事故の減少は結構なことですが、仕事で、どうしても駐車してあげられない

いときは本当に困ってしまっています。▼先日、金剛山にある「日本ライトハウス」でのボランティアデーに、わが家の引退犬プーマを連れて恐妻!?!とともに参加しました。▼多くのパピー犬、キャリアアチェンジ犬、引退犬がボランティアに連れられ五月晴れのもとに集い、楽しい一時をもちました。▼「わぁ、よく似ているー」「兄弟かなあ?」「可愛い!」・犬も人間も久しぶりに逢った同窓会のように、あちらこちらで話がはずみました。▼引退犬は、盲導犬として視聴覚障害

者の杖となり、滅私奉公?勤めをはたした犬のこと。余生はゆったりと過ごさせてやるのが、ボランティアの仕事です。▼でも、それは老犬のこと、わが家のプーマはまだまだ五歳。もと盲導犬という誇りもかなぐり捨て、今や、餓鬼のごとき、食い意地のはったペットになりさがっています。▼安きに流れるのは人も同じこと、弟子ともども初心を忘れずにいたいもの。墓地管理費のご納付をお願いします。墓参の折り、郵便振込でも結構です。

● 法事の功德

お檀家の奥さんがブログ(インターネット上の公開日記)で「兄弟会」と題して、以下の記事を書かれておられました。

母の17回忌が私の家でありました。17年前、お経の本を棒読みしておられた現在の住職が、月参りの時の声より、今や堂々と、さらに朗々と唱えられたのには、本当に驚き、感動しました。先代和尚今の和尚、若和尚とお勤めしてきて頂いた事を思うと、時の流れを強く感じます。

母の亡きあと一週間毎集まっていたのが、一周忌が過ぎ、次が2年後と思うと、何となく淋しく、それで、1年に2回ぐらい、兄弟会という形にして、集まることにしました。

連帯感というか、同胞意識というか、そういうものを、お互いに確認しあうよい機会になります。兄弟仲良くというのが母の教えでしたから、離れて身を案じているより、集まり、互いに楽しい会話を盛り上げる、これが一番よい形だと思います。(略)

ご法事は、故人をしのぶ追善供養ですが、同時に故人さまが、身内や縁につながる人々が一同に会う機会を与えてくださいます。

法要の儀礼のあと、会食(お斎-おとき)をいただきながら、故人を偲びつつ、和気あいあいと懇親を深める。それこそ、故人が願っておられることでしょう。

回忌法要が契機となって、兄弟会やいとこ会をもたれることは、何よりも故人さまの供養になります。

二子山親方の一周忌では、若・貴兄弟も氷解の兆しがあったそうで、それこそ、法事の功德といえるのではないのでしょうか。



水灯会・お施餓鬼法要

8月19日(土)

午後1時半より

※ご先祖供養です。宗旨に関係ありません
ご回向お申し込み下さい。

法 話 ・ 住 職

ご
案
内

「開山龍溪禪師の喜び、誰よりも御本尊の喜びです」